

國學院大學學術情報リポジトリ

中国語を母語とする日本語学習者の日中同形語の日本語独自義における誤用を減らすための提案：

○（1）型（日中共通義＋日本語独自義）同形語を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-02-26 キーワード (Ja): 日中同形語湾, ○（1）型, 日本語独自義, 同形語語用, 母語干渉 キーワード (En): 作成者: 顧, 偉長 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000102

中国語を母語とする日本語学習者の 日中同形語の日本語独自義における 誤用を減らすための提案

—0(1)型（日中共通義+日本語独自義）同形語を中心に—

顧偉長

【キーワード】 日中同形語 0(1)型 日本語独自義 同形語誤用 母語干渉

1. はじめに

中国語を母語とする日本語学習者の各タイプ（0(1)型（共通義+日本語独自義）、0(2)型（共通義+中国語独自義）、0(3)型（共通義+日本語独自義+中国語独自義）、D型（日本語独自義+中国語独自義）¹の同形語における習得過程を検討した先行研究（加藤(2005)、李(2006)、小森ほか(2008、2014)、費(2015)から、主に以下の二つの問題点が指摘できる。

一つは、学習者には日本語習熟度に関係なく、日中同形語を中国語義で認知処理する傾向（言語転移）がある（李(2006)²、小森ほか(2008、2014)³、費(2015)⁴という問題である。

もう一つは同形語の中の日本語独自義について、中国語義から判断する手がかりがないため、日本語習熟度が上級になっても、正しく認知処理することは難しいという問題である（加藤(2005)、小森ほか(2014)。

特に0(1)型同形語（日中共通義+日本語独自義）における日本語独自義は、その意味の構成により、中国人学習者の日本語習熟度が上級になっても誤用率が高い（加藤 2005）。また、学習者の日本語習熟度について、初級から中級と、中級から上級との間で、誤用率に有意差が確認されないこと（顧 2022）など、習得の難しさがうかがえる。

0(1)型における誤用を減らすため、顧(2021)は、河住（2005）、李（2006）の提案を受け、中級学習者と上級学習者を対象に、同形異義語の対照に関する情報を学習者に提示することが同形語誤用に与える効果を調査している。調査は同形語の対照に関する情報を提示する前の段階と提示した段階との二段階に分けて行い、その結果、第一段階と第二段階の間には有意差が確認され、0(1)型の対照に関する情報を学習者に提示することがこのタイプの同形語における誤用を減らすのに効果的であることを示している。

この結果を受け、本稿では中国人学習者にとって誤用しやすい0(1)型同形語を取り上げ、現代日本語均衡コーパス BCCWJ から使用頻度の高い語を抽出し、顧(2021)で示している同形語対

照情報を提示する方法を用いて、初・中・上級学習者を対象に調査を行う。調査の結果を踏まえて、中国人学習者向けの0(1)型における誤用問題を減らす学習法の提案を試みる。

2. 先行研究

2.1 学習者の0(1)型同形語における誤用問題

加藤(2005)は、中国語母語話者と多言語話者との漢語習得過程の違いについて検討している。豪州在住の中国語話者を対象に、S型、D型、O型、N(中国語に存在しない漢語)型のそれぞれを含む文に対する正誤判断テストを行った結果、0(1)型の日本語独自義に関しては、習熟度に比例して習得が進む傾向が認められるものの、上級になっても正答率が低い等、習得の難しさが示されている。

顧(2022)は日本語独自義を有する0(1)型、0(3)型、D型を選び、日本語習熟度初・中・上級学習者のそれぞれの認知度について調査している。

以下の図1は顧(2022)における0(1)型の結果をグラフ化したものである。

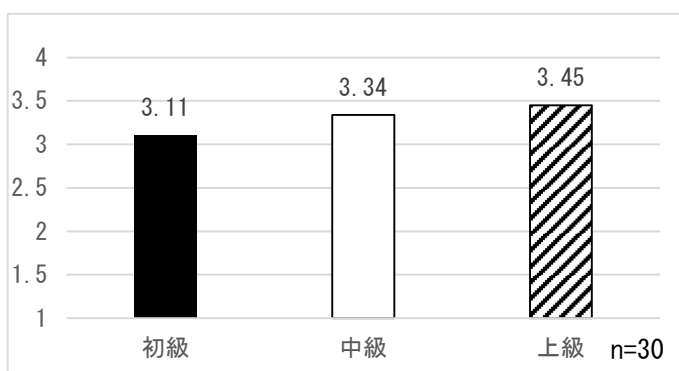


図1：顧(2022)の0(1)型の結果

0(1)型について、初・中・上級の間でそれぞれ日本語習熟度による分散分析を行なった結果、上級と中級は $(F(1, 18) = .264, n. s.)$ 、中級と初級は $(F(1, 18) = .924, n. s.)$ となり、また、上級と初級の平均点を比較した結果は $(F(1, 18) = 3.95, n. s.)$ となり、有意差が確認されないことが明らかになっている。

初・中・上級の間で有意差が確認されず、学習者の日本語習熟度が向上しても、0(1)型における誤用が有意に減る傾向がないことが明らかになっている。

2.2 学習者の0(1)型同形語における誤用を減らすための提案

日中同形語における誤用を減らす提案として、河住(2005)は日中両言語における漢語の用法や相違を明らかにし、適切な指導を行うことや日中同形語の差異に関する情報提供が中国人学習者向けの日本語教育では重要と述べ、また、李(2006)は中国人学習者が日本語の漢語の概念を形成する前に、意味や共起関係、用法について日中両言語の対照関係を予め提示する必要があると述べている。たとえば、「最近」という同形語は日中共通義として「比較的近い過去か

ら現在に至るまでの時間」の意味を示すが、「これから先の時間」という意味は中国語にしかないので中国語独自義の存在を学習者に提示しなければならないことを示唆している。

顧(2021)は同形語における誤用問題を減らす学習法を提案することを目的に、河住(2005)と李(2006)の提案を受け、中国人学習者が誤用しやすい4タイプの同形異義語、0型(0(1)型、0(2)型、0(3)型、)とD型を用いて、日本語中・上級学習者を対象に、日本語の自然さに関する判断テストを行っている。調査はそれぞれ同形語の対照に関する情報を提示する前の第一段階と提示した第二段階との二段階に分けて行った。その結果、第二段階の0(1)型同形語における平均点は、第一段階より大幅に上昇する傾向が確認され、前後二段階の点差についてt検定を行なったところ($t(29) = -3.232, p < .01$)となり、誤答率は有意に減少することが明らかになっている。

同形語の対照に関する情報を学習者に提示することで、0(1)型における誤用が有意に減少した原因について、顧(2021)は学習者自身が母語からの負の転移を意識し、中国語義の活性化が抑制されたことにあると指摘している。

中国人日本語学習者の日本語習熟度に関係なく、形態類似性の高い単語は母語と第二言語で同様の処理過程をもつ(費2015)。そのため、学習者が同形語の対照情報を提示していない段階で、同形語を判断する際、0(1)型の問題文は中国語義としては成立しないため、母語中国語の活性化によって、「不自然」と感じる可能性が高い。一方、0(1)型の意味構成を「日中共有義+日本語独自義」のように学習者に提示することで、学習者に「日中共有義」以外に、「日本語独自義」という新たな選択肢を示すと、母語への負の言語転移が抑えられ、正しく選択できるようになる(顧2021)。

3. 研究課題

中国人学習者の0(1)型同形語における認知処理に関する先行研究から、中国人学習者が中国語義を使って日本語独自義を正しく認知処理することは困難であるため、日本語習熟度が初級から中級、中級から上級に向上しても、このタイプの同形語日本語独自義における習得は有意に進まないことが明らかになっている。

一方、0(1)型同形語の対照に関する情報を「日中共通義+日本語独自義」のように提示することで、学習者は中国語義を使ってこのタイプの同形語を認知処理する際に、「日中共通義(中国語義)として正しくない場合は、日本語独自義として正しい可能性がある」と、新たな選択肢を得るで、このタイプの同形語における誤用が有意に減少することも確認されている。

顧(2021)では、学習者に0(1)型同形語の対照に関する情報の提示が誤用に与える効果を確認している。しかし、管見の限りでは、同形語(特に0(1)型)の対照に関する情報を提示することによって同形語の誤用の抑制に関する研究は顧(2021)しかないため、この調査結果の再現性を確認することはできない。また、中級と上級を対象に調査を行っているため、初級学習者に同形語の対照に関する情報を提示する効果は明らかにされていない。

以上をふまえ、本研究では以下のリサーチクエスションと予想を立てる。

RQ: 0(1)型同形語の対照に関する情報を中国人学習者に提示することで、初・中・上級と日本語習熟度の異なる学習者の誤用は、それぞれ提示する前より有意に減少するかどうか。

本研究では、以上のリサーチクエスチョンを明らかにすることを目的に、調査、考察を行う。

4. 研究方法

4.1 調査の概要

本調査では0(1)型同形語を含む問題文を調査協力者に提示し、日本語としての自然さを判断してもらう。問題文は全部で20問あり、それぞれ語の日本語独自義が用いられており、日本語としては正しいが、中国語義を使って判断すると不正解となる文である。

また、本調査は第一段階と第二段階の2段階で行う。第一段階と第二段階では同じ問題文を使い、第二段階を行う前に、日中両言語の違いについて関心を喚起する情報を協力者に提供する。

4.2 問題文の例と作成のしかた

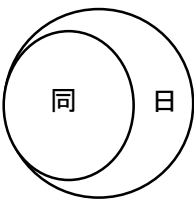
以下、問題文の例をあげる。

● 0(1)型同形語（共有義＋日本語独自義）

1. 彼は会社にとっては欠かせない存在だ。（存在）
2. 浸水で携帯電話の通話機能を失った。（機能）

0(1)型のイメージと語例を表にして以下に示す。

表1：0(1)型同形語の意味構成および調査語彙

同形語の意味構成	イメージ	調査語彙
0(1)型 日中両言語における意味の一部が重なっているが、日本語に独自義があるもの		存在 機能 評価 勝負 対応 期間 保護 土地 戦争 期待 立場 発達 適当 公式 観念 作文 遠慮 解体 更生 体質

本研究の調査対象語は、0(1)型を対象に、国立国語研究所(2015)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』語彙表の短単位語彙表データ(閲覧日：2021年7月20日)を参照し、使用頻度の高い語を20語抽出したものである。

問題文の作成には、Google社のGoogleフォーム機能を使い、事前に作成した調査票にしたがって設問の入力作業を行ってもらった。前後2段階、各20問で、各設問に対し、回答は、「自然、やや自然、どちらとも言えない、やや不自然、不自然」の5つの選択肢から選ぶ方法で調査を行った。

4.3 学習者に提示する0(1)型同形語の対照に関する情報の例

第二段階の調査(第二段階)では、同形語の両言語における意味の違いについて関心を喚起する情報を提示することの効果を検証するため、事前に、0(1)型の解答例を調査協力者に提示

した。解答例のところに、問題と意味説明の形で、0(1)型同形語の意味構成（日中共有義+日本語独自義）を説明し、日中両言語におけるそれぞれの意味を使った例文も提示した。

また、問題文を解答する前に、よく解答例のページを確認するように、調査協力者に注意を呼びかけた。

解答例の一部を以下の表2で示す。

表2：協力者に提示する情報の例

解答例：1、社会奉仕を生涯の仕事とする。（生涯）		0(1)型同形語		
自然	やや自然	どちらとも言えない	やや不自然	不自然
対照情報：「生涯」 しょうがい 0(1)型同形語（共有義+日本語独自義）				
日中共有義：ある職や活動に従事した時期。 例文：政治家の生涯。		日本語独自義：生まれてから死ぬまで。 例文：生涯忘れがたいこと。		
0(1)型の意味構成は（日中共通義+日本語独自義）であるため、日中両言語の間で共通の意味以外に、日本語には独自の意味が存在する。				
<ul style="list-style-type: none"> ● 0(1)型同形語を含む問題文を認知処理する際に、母語中国語義を用いて、不自然と判断した場合、日本語として正解の可能性はある。 ● 例1：「生涯」の日本語独自義（生まれてから死ぬまで）はこの問題文においては自然である。 				

4.4 調査協力者

本研究を進めるにあたっての調査協力者は、中国語を母語とする日本語学習者である。その内訳は、日本語初級学習者（日本語能力試験 N4、N5 合格者）10名、中級学習者（日本語能力試験 N2、N3 合格者）10名と上級学習者（日本語能力試験 N1 合格者）10名である。

年齢は19歳から33歳で、平均年齢は24歳9ヶ月である。日本語学習歴は6ヶ月から8年で、全員日本の教育機関に在籍する学習者あるいは在籍したことのある学習者である。

4.5 調査期間・場所

調査はオンラインで依頼し、調査基準を満たす協力者に調査用のリンクを送り、それに回答してもらうという形式で行った（調査用オンラインページは携帯電話、パソコン両方で開ける設定となっている）。

調査期間：2021年10月12日から2021年10月25日。

4.6 点数の設定について

調査結果を分析するために、「自然、やや自然、どちらとも言えない、やや不自然、不自然」の5つの選択肢にそれぞれ5～1点の異なる点数を設定した。0(1)型での問題文は、日本語独自義を使い、日本語としては正しいが、学習者は中国語義を使って認知処理すると不正解となる文である。

したがって、母語中国語の活性化を抑制し、日本語として正答となる「自然」を5点、一方、中国語の活性化を抑制できず、日本語として不正解となる「不自然」を1点とし、順に点数を

設定している。得点が高いほど、母語による負の言語転移が抑制され、誤用が少ないことを意味する。

5. 調査結果および考察

5.1 第一段階と第二段階の比較

本調査では、同一グループの学習者を対象に、0(1)型同形語に関する対照情報や解答例を提示する事で、学習者のこのタイプの同形語における認知処理に与える効果を明らかにする。第二段階では問題文の内容は変更せず、第一段階の結果と比較する事で、0(1)型同形語の対照情報などを提示する効果を確認する。

以下、前後二段階の調査結果を表3に示す。

表3：第一段階と第二段階の平均点の比較

日本語能力	第一段階		第二段階	
	M	SD	M	SD
上級	3.88	0.69	3.92	0.72
中級	3.14	0.40	3.57	0.34
初級	2.26	0.32	3.17	0.75

注：Mは平均値、SDは標準偏差を表す。

第一段階と第二段階の平均点をグラフ化したものが以下の図2である。

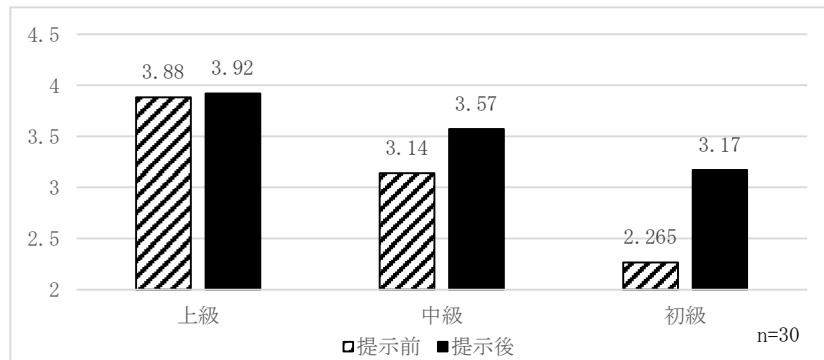


図2：0(1)型における平均点の比較

0(1)型同形語の対照に関する情報および解答例を中国人学習者に提示する効果を検証するため、学習者を日本語能力習熟度により初・中・上級の3グループに分け、データ分析用ソフトSPSS (IBM社) を使い、対応のあるサンプルのt検定を行った。

初級学習者グループに対応のあるサンプルのt検定を行った結果は ($t=4.489, df=9, p<.01$) となり、この結果から見ると、日本語習熟度が初級の学習者に0(1)型同形語の対照情報などを提示することは、誤用を減らすには有意な効果があるといえる。

次に、中級学習者グループに対応のあるサンプルの t 検定を行った結果は (t=2.412, df=9, p<.05) となり、この結果から、中級学習者に 0(1)型同形語の対照情報などを提示することで、誤答率が有意に減少する傾向が確認できる。

また、上級の学習者グループに t 検定を行った結果は (t=.197, df=9, n. s.) となり、この結果から見ると、0(1)型同形語の対照に関する情報の提示が誤用に与える効果は、有意なものではないことがわかる。

5.2 初級学習者に与える影響

初級学習者は 0(1)型同形語を認知処理する経験が中・上級より少ないため、このタイプの同形語の日本語独自義を認知処理する際に、母語中国語義が活性化し、日本語独自義を正しく理解することは難しい。

図 2 に示しているように、初級学習者に 0(1)型同形語の対照に関する情報を提示した第二段階における平均点は、提示する前の第一段階を大きく上回ることがわかる。

初級学習者の各設問における平均点（第一段階および第二段階）をグラフ化したものが以下の図 3 である。

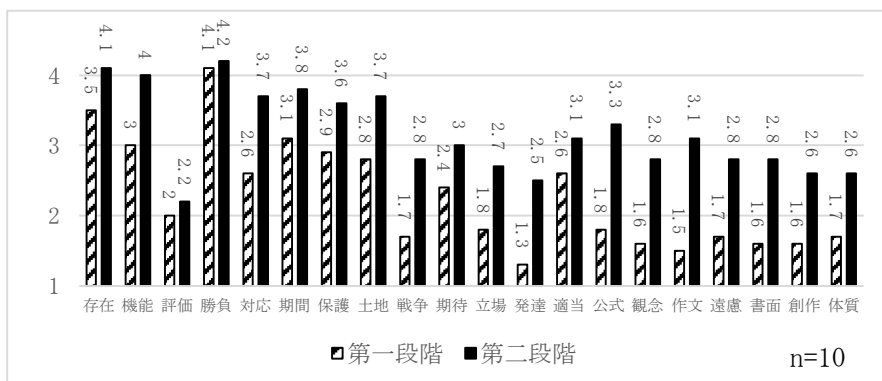


図 3：初級学習者の平均点の比較

図 3 に示しているように、第二段階の平均点は 20 問全てで第一段階を上回る結果となっている。以下、特に誤答率が減少しているように見える設問（第 12 問の「発達」、第 14 問の「公式」、第 16 問の「作文」）の例をあげ、同形語の対照情報の提示が初級学習者の同形語における認知処理に与える影響を考察する。

まず、第 12 問の「発達」は日中共通義「体の一部が成長して充実すること」（その 1）、「ものごとが発展してより高度な段階になること」（その 2）のほかに、日本語独自義として「心が成長すること」（その 1）、「大気圧などの規模が大きくなること」（その 2）も存在する。問題文の「東北付近で雨雲が発達している」のような表現は日本の天気予報でよく使われるが、初級学習者はこの文を認知処理する際に、日中共通義で処理することは難しく、中国語義による負の言語転移が発生し、問題文を日本語として「不自然」と判断してしまうため、誤答が多く見られると推測する。

第14問の「公式」は、日中共通義の「計算の方法や法則を記号で表した式」の意味以外に、日本語独自義の「公に定められた方式。また、それに基づいてものごとを行うこと」の意味もある。近年、コロナ禍のため、多くの「公式訪問」が取り消しや、延期をされ、また、政府政策による「公式発表」が頻繁に出されるなど、「公式」の日本語独自義がよく使われるようになってきている。しかし、初級学習者はこのタイプの同形語の日本語独自義に接触する機会が少ないため、問題文の「この件はすでに公式発表された」を認知処理する際に、中国語義が活性化してしまい、誤答が多くなると考えられる。

第16問の「作文」は、日中共通義の「あるテーマで文章を作ること。また、その文章自体。」の意味のほか、日本語独自義として「文章の上でまとめてあるだけで実質の伴わないこと。」の意味も存在する。初級学習者は中国語義を使って、問題文の「この政府の報告書は作文に過ぎない」を正しく認知処理することができないため、誤答が多発し、第一段階で得られる平均点が二番目に低い。

以上に示したように、初級学習者は中国語義（日中共通義）を使って、問題文で使用している日本語独自義を正しく認知処理することが難しいため、中国語義への負の転移が生じてしまい、誤用問題が多く出ている。一方、学習者に「日中共通義+日本語独自義」のような0(1)型の対照情報、および解答例を提示することで、第二段階の平均点は第一段階を大幅に上回り、誤答率が有意に減少する傾向が確認された。このタイプの同形語の対照に関する情報を初級学習者に提示することは、誤用を減らすには効果があると解釈できる。

5.3 中級学習者に与える影響

中級学習者は0(1)型同形語を認知処理する経験が上級より少ないため、日本語独自義を正しく理解することは上級学習者より難しい。

中級学習者の各設問における平均点（第一段階および第二段階）をグラフ化したものが以下の図4である。

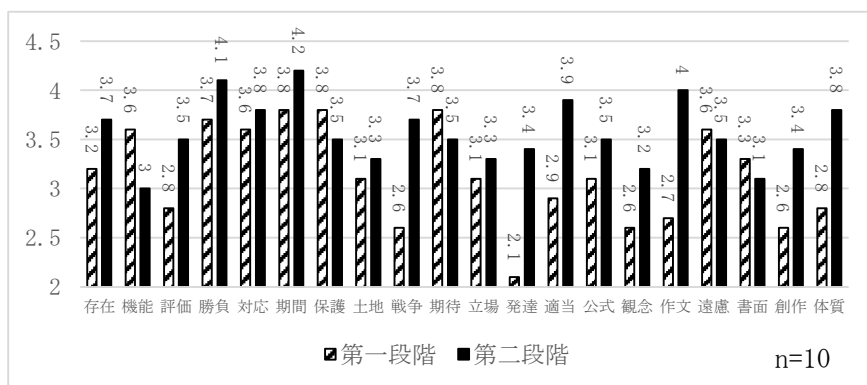


図4：中級学習者の平均点の比較

図4に示しているように、中級学習者の平均点は、第2、7、10、17、18問の5問は第二段階における平均点が第一段階を下回る結果になっているが、残り15問は第一段階を上回る結果

になっている。なかでも、特に上昇幅が大きく見られるのは第12問の「発達」、第16問の「作文」のほか、第9問の「戦争」、第13問の「適当」、第20問の「体質」である。

第9問の「戦争」には、日中共通義の「軍隊と軍隊とが武力を用いて争うこと」以外に、日本語独自義として「激しい競争や混乱」も存在する。学習者は問題文の「受験戦争に勝つためには、頑張るしかない」を認知処理する際に、「受験」と「軍隊と軍隊とが武力を用いて争うこと」は共起しないため、中国語義による負の言語転移を受け、「不自然」と判断する可能性が高い、よって、第一段階では誤答が多く、平均点が低くなることが見られる。

第13問の「適当」には、日中共通の「ある条件や要求にぴったり合っていること」の意味のほか、日本語独自義として「その場をいい加減に済ますさま」もある。中級学習者の問題文の「どんなことでも、適当に済ませるべきではない」をどのように認知処理しているか。「どんなことでも」は中国語に訳すと「無論什麼事」になるため、後に続く中国語義（日中共通義）として正しいのは「適当に済ませる」（中国語に訳すと「適當的完成」）である。しかし、問題文は「適当に済ませる」+「ではない」になっているから、学習者は中国語義を使って認知処理すると「無論什麼（どんな）事（ことでも）、都不（ではない）應該（べき）適當的完成（適当に済ませる）」になるため、前後が矛盾する。よって、中級学習者がこのような文を処理する際に、日本語独自義の存在を知らない限り、正しく認知処理することは困難であると考えられる。

第20問の「体質」も、日中共通義の「個人にそなわっている体の性質」以外に、日本語独自義として「組織などにしみ込んでいるある種の性質」も存在する。中国語では「過敏体質」（日本語に訳すと、アレルギー体質）や「各人的体質不同」（日本語に訳すと、一人一人の体質が異なる）のような文はよく使われるが、全て「個人」を中心に使われている。学習者が問題文の「組織の体質を強化する」を認知処理する際に、「組織」が「個人にそなわっている体の性質」と一致しないため、日本語として「不自然」と判断してしまうため、誤答が多発していることがわかる。

以上の「戦争」、「適当」、「体質」の例から、0(1)型同形語には、日中共通義の意味以外に、日本語独自義が存在し、共通義と意味や使用範囲、使用条件などのズレが存在していることがわかる。中級学習者はこのタイプの同形語を認知処理する際に、中国語義による負の言語転移が生じ、誤答が多発している。一方、0(1)型同形語の対照情報「日中共通義+日本語独自義」、および回答例を学習者に提示することで、誤答率は有意に減少するため、中級学習者のこのタイプの同形語における誤用を減らすには、有意な効果があると見られる。

5.4 上級学習者に与える影響

上級学習者の各設問における平均点（第一段階および第二段階）をグラフ化したものが以下の図5である。

図2と図5で示しているように、上級学習者に0(1)型同形語の対照情報を提示することで、第二段階の平均点は第一段階よりわずかに上昇したが、誤答率には有意な減少傾向が確認できず($t=1.97, df=9, n. s.$)、対照に関する情報の提示だけは上級学習者のこのタイプの同形語における誤用を減らすには有意な効果がないことが明らかになっている。

日本語習熟度上級の学習者に 0(1)型同形語の対照情報を提示した第二段階における平均点は、11問（第1、3、5、6、8、9、12、13、15、16、19問）は第一段階を上回る結果になっているが、3問（第2、4、14問）は前後二段階で同じ平均点、残り6問（第7、10、11、17、18、20問）は第一段階を下回る結果となっている。その中、特に誤答率が増えた問題は第10問の「期待」と第18問の「書面」である。

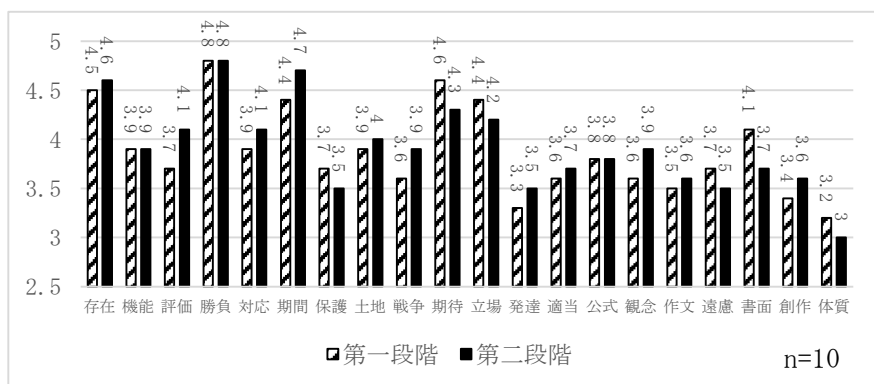


図5：上級学習者の平均点の比較

第10問の「期待」は、現代日本語ではよく使われる同形語で（BCCWJ 短単位語彙表での出現頻度：12511、ランキング：751）、日中共通義の「重要なことがらについて、その実現を強く望むこと」の意味以外に、日本語独自義として「その実現をかなり確かなことと見込むこと」（その1）、「身近なことがらについて、その実現を願い待つこと」（その2）も存在する。問題文の「来年には、この香港映画の上映が期待できる」は、日本語独自義の「その実現をかなり確かなことと見込むこと」（その1）が使用されており、日本語ではよく使われる意味である。上級学習者は長年、この頻用される同形語を既習語として処理した可能性が高いため、対照情報を提示しない第一段階では正答率が高い。

第18問の「書面」は、日中共通の「紙に書かれた文書の形式」の意味のほか、日本語独自義として「文書や手紙などに書かれてある内容」の意味も存在する。上級学習者は問題文の「書面を拝読してからコメントする」を認知処理する際に、各種の学校でこの意味を含む表現に接触し、処理した可能性があるため、第一段階では、中国語義による負の転移が抑制されたことが、この設問における平均点が正答傾向である「やや自然」の4点を越えた理由と考えられる。

上級学習者は0(1)型同形語を認知処理する経験から、日本語独自義を初・中級より正しく理解することができる。一方、対照情報に「母語中国語義を用いて、不自然と判断した場合、日本語として正解の可能性がある。」のような提示文が、逆に学習者の認知処理に負の影響を与え、「自然と判断した場合、日本語として不正解の可能性がある。」のような認知処理が生じてしまい、数問の第二段階における平均点は逆に減少した原因と推測する。

以上のように、上級学習者に0(1)型同形語の対照情報および回答例を提示することで、誤答率は減少したが、このタイプの同形語における誤用は有意に減らす傾向は確認されていない。

今後の課題として、対照情報の提示のしかたや内容などを再考し、上級学習者のこのタイプの同形語における誤用を減らすための学習法の開発に取り組みたい。なお、対照情報の提示により、一部の問題では第二段階の平均点が第一段階を下回る傾向が見られた。このような傾向に至る原因も明らかにしたい。

6. おわりに

本研究は、二段階に分けた日本語の自然さに関する判断調査を用いて、中国人初・中・上級日本語学習者を対象に、0(1)型同形語の対照に関する情報を提示することがこのタイプの同形語の誤用減少に与える効果を検証したものである。調査の結果から得られた、リサーチクエスチョンへの答えは以下の通りである。

R Q : 0(1)型同形語の対照に関する情報を中国人学習者に提示することで、初・中・上級と日本語習熟度の異なる学習者の誤用は、それぞれ提示する前より有意に減少するかどうか。

結論 : 初・中級学習者は0(1)型同形語における日本語独自義を既習語として処理した可能性は上級学習者より低い。このタイプの同形語の対照に関する情報を提示する前の第一段階での自然さの平均点は低く、誤答が多い。一方、同形語の対照に関する情報を提示した第二段階と第一段階の平均点および対応のある t 検定の結果から、初・中級学習者に0(1)型同形語の対照に関する情報を提示することで、母語中国語義への負の転移が抑制され、このタイプの誤用を減らすには有意な効果があると解釈することができる。

しかし、上級学習者は同形語を既習語として処理した可能性が初・中級学習者より高いため、第一段階での平均点が初・中級より高いが、第二段階と第一段階の間で僅かの点差しか確認できず、対応のある t 検定を行った結果から、上級学習者に0(1)型同形語の対照に関する情報を提示することと、このタイプの同形語における誤用を減らすには有意な効果がないことが明らかになっている。

以上の結果から、同形語の日中両言語におけるそれぞれの意味、用法、また例文を提示することは初・中級学習者の0(1)型同形語における誤用を減らすには、有意な効果があることが明らかになった。なお、上級学習者のこのタイプの同形語における誤用をより効率的に減らす学習法の開発、および一部の設問で誤答率が増えた原因については、今後の課題として、明らかにしたい。

注

(1) 王(2015)は日中同形語辞書における同形語分類法を分析し、以下の分類法を提案している。同型語を、Same、Similar(SS型) : 意味が同じ或いは近い語、Overlap(0型) : 意味が部分的に重なる語、Different(D型) : 意味が異なる語、と大別する。さらにその中で、0型をタイプによってさらに3分類している。

- a) 0(1)型は日中両語の意味の一部が重なっているが、日本語に独自の意味があるもの。
- b) 0(2)型は日中両語の意味の一部が重なっているが、中国語に独自の意味があるもの。
- c) 0(3)型は日中両言語の意味の一部が重なっているが、日本語と中国語にはそれぞれ独自義があるもの。

- (2) 李(2006)は、中国の大学の日本語教科書は、初級から中級まで、一般的に漢字、漢語に振り仮名が付く形で、辞書を引かずに済むようになっているから、学習者は漢語の意味を確認するだけであったり、中国語の知識により日本語の意味を取ったりする可能性が高いと指摘している。
- (3) 小森ほか(2008)は、中国人日本語学習者のO型やD型同形語における認知処理と日本語習熟度の関係について検討している。その結果、学習者は同形語を判断する時、日本語習熟度が上級でも、中国語義の活性化が強く、日本語の同形語処理に影響を及ぼしやすいことが明らかになっている。小森ほか(2014)では、中国人日本語学習者を対象に、母語中国語義が同形語の習得に与える影響について検討している。その結果、日本語習熟度が向上しても、中国語独自義が活性化しやすく、負の言語転移を抑制するのは容易でないことが明らかになっている。
- (4) 費(2015)は、中国語を母語とする日本語学習者における中国語と日本語の漢字単語の学習過程を検討し、中国語を母語とする日本語学習者16名を対象に、二段階の研究実験を行っている。実験の結果として、学習者の習熟度に関係なく形態類似性の高い単語は母語と第二言語で同様な処理過程を持つことが明らかになっている。

参考辞書

王永全、小玉新次郎、許昌福(2007)『日中同形異義語辞典』 東方書店

郭明輝、磯部祐子、谷内美江子(2011)『日中同形異義語 1500—日本語と中国語の意味をより深く理解するための』 国際語学社

参考文献

王燦娟(2015)「日中同形語辞典の問題点及びその改善策をめぐって」『芸術工学研究』22, pp. 59-65, 九州大学大学院芸術工学研究院紀要『芸術工学研究』編集委員会

加藤稔人(2005)「中国語母語話者による日本語の漢語習得—他言語話者との習得過程の違い—」『日本語教育』125, pp. 96-105, 日本語教育学会

河住有希子(2005)「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』7, pp. 53-65.

顧偉長(2021)「中国語を母語とする日本語学習者の日中同形異義語における誤用を減らすための提案—同形語の理解についての調査結果を踏まえて—」『国学院大学日本語教育研究』12, pp. 56-74, 国学院大学日本語教育研究会

顧偉長(2022)「中国人日本語学習者の同形語における日本語独自義に対する認知度—日本語習熟度初・中・上級の比較について—」『國學院大學大学院文学研究科論集』(49), pp. 62-49, 國學院大學大学院文学研究科学生会

国立国語研究所(2015)『現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ』短単位語彙表(Version1.1) 国立国語研究所コーパス開発センター

小森和子・玉岡賀津雄・近藤安月子(2008)「中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理：同形類義語と同形異義語を対象に」『日本語科学』23, pp. 81-94.

小森和子・玉岡賀津雄・斎藤信浩・宮岡弥生(2014)「第二言語として日本語を学ぶ中国語話者の日本語の漢字語の習得に関する考察」『中国語話者のための日本語教育研究』5, pp. 81-94.

小森和子・三國純子・徐一平・近藤安月子(2012)「中国語を第一言語とする日本語学習者の漢語連語と和語連語の習得-中国語と同じ共起語を用いる場合と用いない場合の比較-」『小出記念日本語教育研究会』20, pp. 49-61.

費曉東 (2015) 「中国語を母語とする日本語学習者における日本語漢字単語の学習過程-中日2言語間の形態・音韻類似性による影響-」『学習システム研究』1, pp. 48-58, 広島大学学習システム促進研究センター

李愛華 (2006) 「中国人日本語学習による漢語の意味習得-日中同形語を対象に-」『筑波大学地域研究』26, pp. 185-203.

付録：

調査票問題文
● 0(1)型 (共有義+日本語独自義)
1. 彼は会社にとっては欠かせない存在だ。(存在)
2. 浸水で携帯電話の通話機能を失った。(機能)
3. 土地の評価額が年々上がる。(評価)
4. 一対一で勝負する。(勝負)
5. 交通事情に対応した施策。(対応)
6. 好評につき販売期間を三日延長する。(期間)
7. 傷ついた猫は動物園に保護された。(保護)
8. 彼は都心部に多くの土地を持っている。(土地)
9. 受験戦争に勝つためには、頑張るしかない。(戦争)
10. 来年には、この香港映画の上映が期待できる。(期待)
11. みんなの前で叱られて立場がなくなった。(立場)
12. 東北付近で雨雲が発達している。(発達)
13. どんなことでも、適当に済ませるべきではない。(適当)
14. この件はすでに公式発表された。(公式)
15. もうダメだと思い、彼は観念した。(観念)
16. この政府の報告書は作文に過ぎない。(作文)
17. 所用のため、今回は出席を遠慮させていただきます。(遠慮)
18. 書面を拝読してからコメントする。(書面)
19. 彼の話は全て創作されたものだから、信じてはいけません。(創作)
20. 組織の体質を強化する。(体質)